

様式第2号（第8条関係）

審議会等会議録

会議の名称	令和7年度 第1回加須市医療連携推進会議
開催日時	令和7年8月25日（月） 午後1時15分～午後2時15分
開催場所	加須保健センター 2階 集団指導室
議長氏名	武正 寿明
出席委員	【1号委員】 武正 寿明（加須医師会会長） 湯橋 崇幸（加須医師会副会長） 松村 卓哉（加須医師会副会長） 中田 代助（加須医師会会員・中田病院院長） 板橋 道朗（加須医師会会員・済生会加須病院院長） 【2号委員】 渡邊 英治（加須市薬剤師会会長） 加茂 仁（加須市薬剤師会会員） 【3号委員】 松永 勝也（加須市健康スポーツ部部長）
欠席委員	なし
会議次第	1 開会 2 委嘱状交付 3 市長あいさつ 4 会長・副会長の選出 5 会長あいさつ 6 議題 (1)・加須市医療連携推進会議設置要綱 (2)・加須市地域医療ビジョン（令和3年3月） ・加須市地域医療ビジョン 令和6年度取組結果表 (3)・2024年度版「加須市の健康指数」（出典：埼玉県） (4)・（仮称）加須市健康・医療・スポーツ推進計画の策定について 7 その他 8 閉会
会議資料の名称	次第、加須市医療連携推進会議委員名簿 【資料1】 加須市医療連携推進会議設置要綱 【資料2】 加須市地域医療ビジョン（令和3年3月） 【資料3】 加須市地域医療ビジョン 令和6年度取組結果表 【資料4】 2024年度版「加須市の健康指数」（出典：埼玉県）
会議の公開又は非公開の別	公開
非公開の理由	
傍聴者の数	なし
説明者の職・氏名	加須市 健康スポーツ部 いきいき健康医療課 課長・荒井 幸子
事務局職員 職・氏名	加須市 健康スポーツ部 いきいき健康医療課 主幹・秋山 憲次 主幹・栗原 香 主査・川田 絵美子 主査・小林 正樹
会議録の作成方法	☒ 要点記載 ☐ 全文記録
その他必要な事項	

様式第 3 号（第 8 条関係）

発言者	会議の内容（発言内容、審議経過、決定事項等）
事務局（秋山）	1 開会
角田市長	2 委嘱状交付（全員）
角田市長	3 市長あいさつ（あいさつ後退出）
事務局（荒井）	4 会長・副会長の選出 会長（議長）に武正委員を、副会長に渡邊委員を選出
武正会長	5 会長あいさつ
事務局（荒井）	6 議題 (1) 加須市地域連携推進会議設置要綱 (2) 加須市地域医療ビジョン（令和 3 年 3 月） (3) 令和 6 年度取組結果表 (4) 2024 年度版「加須市の健康指数」（出典：埼玉県） 資料に基づき説明
板橋委員	周産期医療について、済生会加須病院に要望したが開設に至らなかったとあるが、私の着任前のことだと思われ、経緯が不明である。説明を。
事務局（小林）	済生会加須病院との包括連携協定に基づき、済生会加須病院あて産婦人科の開設について要望させていただいているが、実現に至っていないという状況を表記している。
板橋委員	私としては、どうにか地域の医療に貢献できないかと考えている。産婦人科は難しくても、婦人科ならばどうにかならないか、など、地域のニーズに即した診療科目については考えている。 済生会加須病院としては、産婦人科を開設しないということはない。産婦人科の開設が前提条件になっているのか。
事務局（小林）	包括連携協定では、あくまで市民ニーズに即した診療科目としている。市議会から産婦人科の開設を求められていることから、市の取組としては当該事業を位置付けている。 診療科目については、そのような経緯を踏まえて協議させていただきたい。
板橋委員	独断で進めようとは思っていない。加須医師会の先生方ともよく話し合っってニーズを把握していきたい。
武正会長	医師会としては、鈴木医院が閉院してしばらく経つため、産婦人科を開設してもらえるなら異論は少ないと思う。
湯橋委員	健康づくり推進委員会でも話題になったが、「小児科医による救急講座・子育て相談」の参加者数のように、目標値が実績と乖離している取組項目がある。目標値の決め方に問題があるのでは。 また、看護師育成支援について、実績が伸び悩んでいるが、これに対して市がどのように取り組んでいるかを市内医療機関の院長である私も聞き及んでいない。
松永委員	委員ではあるが、事務局の立場から発言させていただきたい。 本ビジョンについては令和 3 年度に 5 年間の目標を設定したものであり、目標が現状と乖離している部分もあるが、実績を見て検討していきたい。

	看護師育成について、医師会の先生方にも浸透していないことが分かったので、今後は周知に努めていきたい。 なお、看護師支援制度の利用者数について、現在の調書には年度毎の利用者数が掲載されているが、指標は計画期間中の延べ利用人数であるとなっているので、事務局は修正を。 また、先程板橋委員から発言があった部分については、市の要望に済生会加須病院が応えなかった、という表現となっており、書きぶりが良くなかった。申し訳ない。 小児科医による救急講座・子育て相談では、令和5年度まではコロナ禍を踏まえて配信による視聴を可能としており、その視聴者数も参加者に含めていたところだが、令和6年度からは配信を取り止めており、目標値より極端に少ない実績となっている。これは反省材料ではあるが、この後事務局から説明があるとおり、次期計画について考えていく中で目標値も検討することになると思われる。
事務局（秋山）	(5)（仮称）加須市健康・医療・スポーツ推進計画について 口頭にて説明
板橋委員	これから目標を策定するということだが、目標の設定の仕方をどうするのか。予め決まった目標値へ向かっていくというのも大事だが、計画期間の5年の間に色々状況も変わっていく。中間点、例えば3年で見直すというようなことをしたほうが、目標値との乖離が少なく済むのでは。
中田委員	整形外科の医師としての立場から、スポーツと医療ということで、関連づけてやっていくことはいいと思う。 1つだけ、オーバーワークだと決して健康にはなりえない。目標値だけだと、そこが見えなくなってしまうところがある。スポーツに関する計画で健康に触れるのであれば、その部分の評価もしていただいて、一言で言えば、安全にスポーツができるように、対処していただきたい。
松永委員	再び事務局の立場から失礼する。 新しい計画において、スポーツは2つの項目に分けたいと考えている。競技志向のスポーツと、健康のためのスポーツというような。 健康のためのスポーツと、勝つためのスポーツは分けて、計画を作っていきたいと考えている。
中田委員	具体例として、健康のためのスポーツ教室に参加して無理をしたところ、足を悪くしたという患者もいた。段階を踏んで、調節しながら運動することが健康につながっていく。健康とスポーツはうまくバランスを取らなければならない。
武正会長	事務局も色々大変だとは思いますが、目標設定についてはこの会議で出た意見を参考にしてもらいたい。
事務局（栗原）	7 その他（新型インフルエンザ等対策行動計画について） 資料により説明
武正会長	コロナ禍において、加須市はワクチンの接種率、接種のペースとも良く、良い体制が構築できていたと考えるので、新しい感染症の際もこれに準じた形を目指せるとよいのではないかと。医師会も、集団接種には協力するし、個別接種も進めていく。皆さんの意見はいかがか。
加茂委員	コロナ禍では、薬剤師によるワクチン接種が検討されたが、実施には至らなかった。法整備が必要な協力もあるが、薬剤師会も研修などで知識を深め、医師や行政と協力していきたい。

湯橋委員	今回説明があったのは「市の行動計画」だと思うが、これは市独自のものなのか、国からのお達しで全国一律に作るものなのか。また、保健所の管轄単位など一定の範囲で、他の自治体との横並びの部分もあるのか。
事務局（栗原）	お話しのとおり、本件計画は市の独自性を盛り込むようなものでなく、埼玉県の行動計画に基づき、市町村が行うこととされている事務について定めるものである。どこの自治体も取り組む事項は基本的には同じとなる。 また、実際に新興感染症が流行した際は、県の行動計画に基づき県医師会から郡市医師会を通じて各市町村の医師会に連絡が来ることになる。郡市医師会を一にする羽生市とは、市の行動計画の作成時点で調整を図っていく。
松村委員	武正会長からも意見があったが、先のコロナ禍の対応は試行錯誤の中で臨機応変に、かなりよくできたと思っている。その中でも改善点などを洗い出すための総括のようなものは、市内部で行われているのか。
事務局（栗原）	コロナ禍への対応としては、対策本部会議の解散をもって終了している。 今後に向けて見直すべき点として、現在、国では医療のDX化、特に予防接種事務のDX化を進めようとしている。次の感染症の流行への対応を考える際、医療事務のDX化が進んでいる状況を前提とした対応を国などから求められるのではないかと憂慮している。
松永委員	先に開催された「加須市健康づくり推進委員会」でも、コロナワクチン接種率100%という目標はありえない、と湯橋委員から発言があった。またワクチン接種は自己判断なので、打ちたくない人も当然居中での現実的な目標値はどのくらいなのか、決めかねる部分もある。今後、医療従事者である委員の皆さんのご意見を伺ってきたい。
武正会長	私見だが、今後新興感染症が流行した際には、まずは済生会加須病院に頑張ってもらって、診断や治療の方針が見えてきたら医師会も積極的に関わっていく、という形でしか対応はできないのではないかと考えている。医師会も、当然医師会全体として働かせていただくので、その際はよろしくお願したい。
渡邊副会長	8 閉会 副会長あいさつ
事務局（秋山）	閉会を宣言

会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。

令和7年9月5日

署名

武正 長 明